

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本



2024年9月29日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

直木賞作家・今村翔吾さん 活動の原点は 29日(日)＝1、3面



直木賞作家の今村翔吾さん＝写真＝は執筆業以外にもテレビの情報番組のコメンテーターを務め、全国各地で講演会やサイン会なども積極的にこなしています。

今夏、宮崎県椎葉村で「秘境の文筆家」プロジェクトを始めました。エンタメ作家志望の若者を募り、村が彼らを「地域おこし協力隊」に委嘱。給与や住宅を保障したうえで、村に居住してもらって執筆活動に打ち込んでもらう、というものです。今村さんや編集者などがあれこれアドバイスをするなどして、自然豊かな村でエンタメ作

家を養成し商業デビューさせようという試みです。

今村さん自身の話で言えば、小説の世界にのめりこんだのは小学5年の時。池波正太郎の歴史大作「真田太平記」をむさぼるように読んだ記憶が忘れられないといいます。作家を夢見ましたが、家業を手伝わねばならず、一時はあきらめたこともありましたが、でも「あるひと言」で再び作家への道をまい進し、直木賞受賞という夢を叶えました。そんな今村さんの活動を支えているものは何なのでしょう。

※先週は紙面事情により休載しました。再掲となります。

スポーツ競技とAI

29日(日)＝総合面

スポーツ界でも人工知能(AI)技術の活用が広がっています。

今夏のパリ・オリンピックでは、体操競技で演技内容を数値化して採点に生かすシステムも導入されました。

陸上、卓球などさまざまなスポーツで、選手の動作を解析して技術向上につなげる試みも進んでいます。スポーツとAIの現状について、専門家の意見を交えつつ解説します。



AIを活用した採点システムが導入された体操競技



いつの時代も、その時代を象徴する人物がいます。一挙手一投足が注目される米大リーグ、ドジャースの大谷翔平選手も、その一人でしょう。

前人未到のシーズン「50本塁打、50盗塁」を達成した大谷選手の活躍に人々が熱狂する背景には、何があるのでしょうか。「グローバリズ

ム之光と陰」をテーマに分析する日本総合研究所会長の寺島実郎さん「写真」や他のスポーツで「二刀流」に挑む選手らに聞きました。

論点 大谷翔平とその時代

10月4日(金) 11オピニオン面

特集 ワイド

死の体験旅行

10月2日(水)＝夕刊2面

死について、日ごろから意識している人はどれほどいるのでしょうか。誰しもいつかはこの世を去ることになるのに、とりわけ心身ともに元気な時期には、死を意識する機会にはほぼない、という方が多

いのではないのでしょうか。

病に倒れ、できることが減り、力尽きるまでを仮想体験する「死の体験旅行」という仏教者の取り組みに参加し、生と死に思いをめぐらせました。

竹橋の窓辺から

編集後記

連続テレビ小説「虎に翼」が最終回を迎えました。大正から昭和の時代に存在した様々な差別や不合理を、今も確実に社会に存在する課題として視聴者に問いかけた作品でした。「透明化されている人たちを描き続けた」と、脚本家の吉田恵里香さんは毎日新聞の取材にも話していました。「誰もが自分らしく生きられる社会を実現していく」とミッシェン掲げる毎日新聞の社会的役割を考えながら、背筋を伸ばして拝読しました。(立花健一)

毎日新聞